

## 四分五裂の民進党と相まった政界大再編

## 「小池劇場」いよいよ国政へ？

政治ジャーナリスト 鈴木哲夫



小池氏は「本気モード」に突入か（東京都）

今年の最大の関心は、この大会で自民党がどんな対決姿勢を見せるか。相手は、もちろん圧倒的に高い支持

東京都議会議員選挙が行なわれる4年に1度。毎回、この大会の活気や動員は凄まじいものがある。自民党東京都連の総決起大会が4月11日に都内で開かれ、毎回の規模以上の5000人か集まつた。

## 全面対決へ舵切つた自民党

をキープしている、小池百合子東京都知事だ。

実は、首相は挨拶の中で小池氏に

都連幹部らとじっくり話す機会を得た。官邸にも党本部にも深く通じるこの幹部らに、今後小池氏とは都議選に向けてどんな距離感で行くのかをぶつけた。

それまで、官邸や自民党本部は、余りにも人気の高い小池氏とは正面衝突は避けて、押したり引いたり、いわば「抱きつき作戦」で対立軸をなくす戦術だったのだが、私の問い合わせにこの幹部は「小池は……」と言った後、顔の前で両手の人差し指で「×（バツ）」を作つた。

その意味は……。

「小池はノー」。官邸は戦えという方針に変わつた。都議会でも次第に厳しい姿勢に変えて行く。4月の決起大会の頃には全面対決の姿勢になるものとおり、大会は「全面戦争モード」（自民党東京選出ベテラン議員）に染まつた。

「小池知事の勢いが東京を起点に全国に広まり、総選挙でも小池氏が新党を結成する可能性も出て来ている。また、このまま戦わずして追い込まれて行くようなことになると、国政選挙でも東京で自民党が惨敗したりすることだってある。もはや国政レベルで小池氏についてのリスクを

安倍首相も「急に誕生した政党にとても都政を支える力はありません」と挨拶した。

実は、

首相は挨拶の中で小池氏に

対して多少のリップサービスをする場面もあつたが、何と会場内はシーンと静まり返り、「今さら何を言つてんだ」の空気。

ある都議候補は「まあ好きに言えぱいんじゃない」と、何と安倍氏に

対して冷たく言い放つた。

さらに、会場内では、豊洲新市場移転問題になかなか結論を出さない小池氏を批判する映像まで制作し、巨大スクリーンに映し出された。

しかし、官邸はなぜ「×（バツ）」

を出したのだろうか。

「小池知事の勢いが東京を起点に全国に広まり、総選挙でも小池氏が新党を結成する可能性も出て来ている。また、このまま戦わずして追い込まれて行くようなことになると、国政選挙でも東京で自民党が惨敗したりすることだってある。もはや国政レベルで小池氏についてのリスクを





## ちぐはぐ感が拭えない蓮舫執行部（民進党）

て  
い  
る

都民ファーストの会の候補の1人は「その秘策の1つが民進党への対応」を語り切る。解説する。

と云ふでこの解説する

蓮舫代表はそう語る一方、「個人の判断だ」と突き放す言い方で、悔しさもにじませた。

新党を作つて国政に進出し、保守再  
りタカ派とも言われる。

「当初は、選挙の全面協力は公明  
党のみ。旧民主党・民進党系の東京

改革議員団については、選挙区ごとの事情や個人的な関係で考えると洽たかつたのですが、ここへ来て、2人

区などで民進党を離党して無所属になれば、都民ファーストの会・民進党・連合の三者で推薦しようという動き

文參議院議員

で小池知事の元を訪れたのですが、

2回目は口実ではないか。五輪関係者も誰もおらず2人で会っていた。松沢さんは地方政治改革にも熱心。小池さんと政策面でのウマは合うんじやないか」（同）

求心力低下の蓮舫執行部  
は変わってきたんですね。つまり、政党  
である民進党やその支持団体の連合会  
などとも、よい関係を構築しようと  
いうことで、明らかに国政の舞台での  
決戦の際に、民進党との連携に道を  
残しておいためでしょう」

いうことで、明らかに国政の舞台での決戦の際に、民進党との連携に道を残しておいためでしよう」

か 蓮舫執行部が改憲は不要と批判  
これに対して細野氏は「憲法は代  
表選で、蓮舫氏を応援する条件だ  
た。筋として執行部にいられない」  
というのが代行辞任の理由だ。  
ドミノのように、この後も執行部へ

「政権内では、保守現実路線を取れる貴重な存在として官僚からも信頼されたが、民主党が政権から転がり落ち、後はいつ民主党から離れる島氏の支援者が言う。

## 求心力低下の蓮舫執行部

なるほど、小池氏がいよいよ国政も見据えるようになり、その連携相手の1つとして視野に入れる民進党だが、ここへ来てどうも心もとない状況だ。

さうに、私の独自取材では、北部九州の2つの県、東海1県、東北2県の元衆参国會議員や県議会議員などが、小池氏との接触をあらゆるチャンネルで探り始めていた。九州地区の元国会議員は「小池新党を想定して、独自の勉強会を始めていた」

と話す。

第三章 國政之意識（二）自民黨對策

また国政を意識した自民党対策は、実は都議選の戦術にも見え始め

蓮舫執行部の求心力は弱まる一方だ。「同時期に（党内の）ちぐはぐ感を見せたことは、私達を支援している方に大変申し訳ない」

旧民主党の元議員は「長島さんの離党は既定路線だった」と話す。  
2003年に初当選した長島氏だが、  
政治理念や政策は保守。安全保障

きかけて来た。2014年の衆院選で、長島さんが小選挙区で勝つていれば、次の選挙は党を変わるので、自民党公認を仕掛けようと思っていた。

